

町小だより

令和6年
11月27日
No. 691
御免町小学校

「つながる」って

校長 相澤 祐助

11月7日（木）には、多くの皆様から御協力をいただき、無事に「町小ウォークラリー」を実施することができました。これまでになかった新たな取組として、子どもたちと教師が一緒になって作り上げた行事です。私が一番うれしかったのは、班の仲間と一緒に歩く子どもたちの笑顔でした。そして、それを支えてくださった保護者ボランティアの方々、チェックポイントで待ってくださる地域の方々の笑顔でした。前日までの雨や風がうそのように晴れ、寒さはありませんでしたが、「町小ウォーク」の最中は良い天気にも恵まれたのです。地域の皆さん、そして天気までもが町小の子どもたちを祝福してくれているかのようでした。皆さん、本当にありがとうございました。

私たちはこの5年間、新型コロナウイルス感染症から大きな影響を受けてきました。これまでは当たり前だと思っていたものが、そうでもないことに。タブレット端末があれば便利だなと思っていたら、あっという間にすべての子どもたちの手に届きました。遠い場所へ会議に行くことが難儀でしたが、オンライン会議ならいつでもどこでも、瞬時につながります。まるでドラえものの「どこでもドア」状態です。しかし、失われたものがあまりにも大きすぎました。それは何か。「つながり」です。

ウイルス感染下では、なるべく他との接触は避ける、家庭内でも部屋を分けるなどの対応を余儀なくされました。「濃厚接触者」この言葉は嫌な言葉として私の脳裏に焼き付いています。これは学校でも同じで、異学年交流もストップしました。そのためか、驚いたことに、卒業式に参列した低学年の子どもたちは卒業生のことをあまり知らなかったのです。ここに竿を差し、動き出したのが去年と今年の6年生たちでした。去年の6年生は、「花壇づくり」から異学年交流を始めました。今年の6年生は、さらに異学年による班、ファミリー班（縦割り班）を作り、「みんなの町小学区でウォークラリーをしよう」と提案してくれたのです。まさに、ウイルス禍でなくなりかけた子ども同士の絆、つながりを深めようとしてくれました。うれしかったです。子どもたちが主体となって活動を進めていく、これこそが「つながり」です。8kmほど歩くウォークラリーは容易ではありません。でも、高学年が低学年を支え、中学年が励まし、保護者ボランティアの皆さんが元気づけてくれたのです。「つながる」って本当に素晴らしいものです。

今、5年生が特別活動（学級活動）の時間に、2年生と仲良く遊ぶという企画をしてくれています。球根植え、スポーツテストなどで一緒に活動した2年生ともっとつながりたいという5年生の願いからです。すると、2年生は、自分たちが育てたさつまいもでスイートポテトを作り、5年生にプレゼントしてくれていました。子どもたちが、自分たちでどんどんつながっていく。これこそが私が求める「町小の子どもたちの姿」です。寒くなってきましたが温かな一コマが少しでも増えることを願っています。